

英米文化学会会報

第 41 号

平成 11 年 10 月 22 日版



第 17 回大会風景

目次

- ◆日本学術会議への学術研究団体登録受理されました
- ◆英米文化学会第 101 回例会のお知らせ（発表要旨）
- ◆『英米文化』投稿希望者へのご案内
- ◆事務局からのお知らせ

◆日本学術会議への学術研究団体登録完了

日本学術会議に学術研究団体登録を申請しておりましたが、登録が完了したとの連絡がありました。これで、公式に学会と胸を張って言える(?)ようになりました。正確には以下の書面（一部抜書き）のとおりです。

総学推第 20-1 号
平成 11 年 9 月 14 日

英米文化学会代表者殿
日本学術会議会員推薦委員会(印)

第 18 期日本学術会議会員の選出に係る学術研究団体の登録申請の結果について(通知)

標記について、本会における審査の結果、貴団体を、日本学術会議法第 18 条 3 項に基

づき登録したので．．．通知します。

◆英米文化学会第 101 回例会のお知らせ

標記の例会が下記要領にて開催されます。

◆開催年月日：平成 11 年 11 月 20 日（土）・21 日（日）

◆場所：アジアセンター小田原

〒250-0045 小田原市城山 4-14-1 電話 0465-22-6131

◆日程：受付 11 月 20 日 14:30～

研究発表 同 15:00 開始

忘年懇親会 同 18:00 開始（会費 5,000 円）

<研究発表>

1. Macbeth における time について

山木 聖史（学習院大学大学院）
司会 鈴木 正彦（駒沢女子大学）

2. H. G. ウェルズの空想科学小説における観察者 ——視覚文化論的観点からの考察

内田 均（学習院大学大学院）
司会 大東 俊一（法政大学）

3. 十九世紀末の消費文化と審美主義 ——ワイルドとジェイムズから——

川口 淑子（東京工科大学）
司会 五味田幸夫（玉川大学）

4. Scholars View the Millenniums, Past and Present

Wayne E. Parton（拓殖大学）
司会 伊東 田恵（豊田工業大学）

英米文化学会第 101 回例会研究発表レジメ

1. *Macbeth* における time について

山木 聖史

言うまでもなく、*Macbeth* は運命に翻弄される人間の悲劇である。だが、その悲劇は運命における time のありかたと人間世界の time のありかたとの差異から生じるものではないだろうか。たとえば、Come what come may, /Time and hour runs through the roughest day. (I. III.) というように、*Macbeth* の作品の中には time に言及する台詞が多い。とりわけ、*Macbeth* の time の捉えかたには興味深いものがある。実際、この作品では、人間の世界＝物語の進行の time と Weir Sisters の世界の time とは決定的に異なっている。本発表では time という観点からこの作品を分析し、悲劇が発生する要因、更に劇中の time の差異による演劇的機能を考える。

2. H. G. ウェルズの空想科学小説における観察者 ——視覚文化論的観点からの考察——

内田 均

H. G. ウェルズが初期の SF 作品においてみせた豊かさと弱さとは、ダルコ・スーヴィン (Darko Suvin) に倣って言うならば、「科学的にみて体系的な方法」と「芸術的にみて生々しい感動を伝える方法」との絶えざる緊張関係に由来している。そして、常に大衆の眼を意識した彼一流の「レトリックとしての科学」が物語を支えているのである。ところで、ウェルズの活躍し始めた 19 世紀末の社会的コンテクストに目を向けると、写真を中心とした視覚イメージの産業化

が、小説を娯楽として読むような一般読者に対しても既に影響を及ぼし始めていた。触覚から切り離された視覚経験や眼による所有という欲望が、複製技術の進展と絡み合いながら、「現実」ないしは「事実」を擬制する装置の開発を促してゆく。ウェルズは、当時発明されつつあった様々な情報装置のテクノロジーやそれらを生み出す源となった科学的知見に自らの想像力を充填することで作品を書き上げていったとも考えられる。本発表では、ウェルズの短編の中から、視覚や色彩をモチーフとした作品を数篇取り上げる(“The Country of the Blind”、“The Remarkable Case of Davidson’s Eyes”、“The Queer Story of Brownlaw’s Newspaper”など)。そこに垣間見えるのは、視覚ないしは空間知覚をめぐる問題である。この点を、登場人物／語り手／作者／読者の複数の視点＝観察者という立場から重層的にとらえつつ、視覚文化論的なアプローチにより、情報社会に生きる現代の我々の問題と切り結ぶ視座において考える。

3. 十九世紀末の消費文化と審美主義 ——ワイルドとジェイムズから——

川口 淑子

十九世紀末のイギリスには、急速に発達した消費文化と審美主義の流れを汲む美意識が共存していた。実際の、現実的な消費という行為と、むしろ実践的ではなく、しばしば遠回りを含んだ十九世紀末の美意識は、実は、一部、相互依存関係にあると考えられる。この原理は、当時の作家にとっても避けがたいものであっただろう。今回の発表では、オスカー・ワイルドとヘンリー・ジェイムズを取り上げ、一見対照的な二人が、実は、かなりの共通点を持ち、劇作家としてライバルであったばかりでなく、小説を書く上でも、密かにかなりの影響を受けあっていたことを確認し、その上で、見逃しがたいほど共通点を持ちながらも、二人が全く異なる印象を与える理由の一つを、当時の消費文化に求めて考察したい。そして、二人の関係から、審美主義に関わる作家の作品が、消費文化という、いわば需要側からの規定をどのように受けるものなのか、その可能性を探ることを試みる。

4. Scholars View the Millenniums——Past and Present

Wayne E. Parton

I will report what men of letters have said about the past and the current time frame from an academic point of view. This is not the first time a "New Millennium" has dawned upon us. What sort of situation existed in A.D. 1000? What does the New Millennium actually start? How was the year 2000 envisioned in earlier times? How did scholars view the millenniums, past and present? What are the parallels between the first millennium and the second?

◆『英米文化』投稿希望者へのご案内

『英米文化』第30号の投稿締め切りは10月31日です。投稿規程は『英米文化』第29号の189頁をご覧ください。新入会員で投稿規程が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送りします。その他投稿に関してのご質問は学術担当の田辺治子理事 (Eメール :tanabeh@azabu-u.ac.jp Tel: 03-3722-0235 Fax: 03-3721-9235) までお寄せ下さい。

◆事務局からのお知らせ

◆第101回例会宿泊について

今回の例会は、通常より多い発表者数なので、好評のうちに申し込みを多数いただきましたが、まだ若干の余裕がございます。急に参加できるようになられた場合は、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。当日は、携帯電話(090-3901-3508)にて承ります。申し込みをされた方には、宿泊費振込先などの連絡をいたしますので、事務局より連絡がない場合にはお知らせください。なお、アジアセンターへの直接の宿泊交渉等は混乱・手違いの元となりますのでご遠慮ください。

◆会員による出版

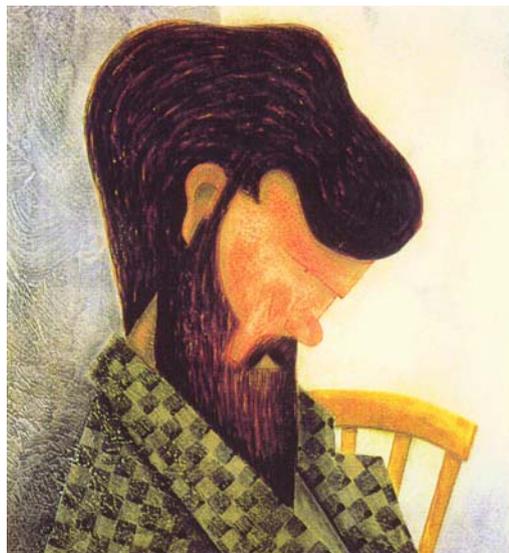
永田美喜子著『ミュリエル・スパークの世界—現実・虚構・夢』彩流社 2,800円

1918年スコットランドに生まれ、現在もなお活躍する女性作家ミュリエル・スパークについての研究書が英米文化学会会員の永田女史によって彩流社から出版された。本書は、20作以上に及ぶスパークの作品群から細かく丁寧にその登場人物を分析することを通して小説全体のメタフィクション性や超自然現象を解明している。しかし、読者にとって最も有り難いのは、本書の最後にもうけてある「ミュリエル・スパーク全長篇小説解題」ではないだろうか。それぞれの作品のあらすじ、登場人物リスト、解説は、私のようにスパークをあまり知らない人間にもスパーク文学の門戸を開いてくれる。英語の講師をしながら、研究にもたゆまぬ努力を積み重ねてこられた永田女史のこの著書は、私たちを楽しませてくれると共に、大きな励ましを与えてくれるものだと思う。会員の皆様にもぜひ一読されたい。(吉原令子)

◆会員の動き

<新入会員> (申込受付順) (住所の左側の数字は郵便番号です)
省略

<住所変更>
省略



D. H. ロレンス

英米文化学会会報 第41号 編集・発行：英米文化学会編集委員会＝池田 広子、小川 喜正、
岸山 睦、中村 豪、山根 正弘
発行責任者： 中村 豪 〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷2509-12 Tel 048-787-4693

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 Tel 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/>